

2018年度事業計画

2018年度は、定款にしたがって以下の事業をおこなう。

1. 創立100周年に向けての俯瞰的行動目標の策定

2. 学会誌および学術図書の発行

- (1) 生物工学会誌（第96巻第4号～第97巻第3号まで12冊）を刊行
- (2) Journal of Bioscience and Bioengineering(Vol.125 No.4 ～ Vol.127 No.3まで12冊)を刊行
- (3) 2018年度大会講演要旨集を刊行

3. 学術講演会およびシンポジウムなどの開催

- (1) 2018年度日本生物工学会大会
- (2) SBJシンポジウム 2018
- (3) 生物工学懇話会

4. 研究の奨励および研究業績の表彰

- (1) 研究部会活動の更なる展開と活発化
- (2) 生物工学若手研究者の集い(若手会)への支援
- (3) 産学若手研究者への支援の在り方と顕彰に関する検討
- (4) 生物工学賞、生物工学功績賞、生物工学功労賞、生物工学奨励賞(江田賞、斉藤賞、照井賞)、生物工学技術賞、生物工学論文賞、生物工学アジア若手賞、生物工学アジア若手研究奨励賞および生物工学学生優秀賞(飛翔賞)の授与

5. 学会活動の充実・強化

- (1) 支部と連携した一体的な運営と事業活動の推進
- (2) 基金(産学連携基金等)の活用
- (3) 各種公的資金制度への積極的な課題提案
- (4) 産学連携の推進
 - 1) 産学連携シンポジウムの開催
 - 2) 賛助会員、出展企業との交流促進
 - ① 展示参加企業の集い(年次大会)
 - ② 賛助会員の集い(関西支部醗酵学懇話会、東日本支部新年賀詞交換会)
 - 3) 産学の人材教育と育成
 - ① 生物工学産学技術研究会の実施：大学の若手研究者や学生を主対象とする産業界のものづくり(実用化・商品化)技術の紹介
 - ② 生物工学基礎教育セミナーの実施：大学教員による産業界の若手研究者・技術者を対象とした基礎教育
- (5) 社会貢献の推進
 - 1) 生物工学を中心とする知識や最新技術に関するサイエンスコミュニケーターとしての活動や啓発図書出版の検討
 - 2) 一般市民へのバイオテクノロジーの普及活動強化
 - ① 市民フォーラムや講習会の開催
 - ② 中高校生を対象としたバイオテクノロジー教育や実験講座の開催
- (6) 事業活動の積極的な広報と寄附意識の醸成
- (7) 会員および社会のニーズを反映した生物工学会誌の一層の充実化
- (8) ITを活用した会員への情報発信の強化
 - 1) 会員管理システムの充実
 - 2) 学会HPのさらなる整備・充実
 - ① 電子ジャーナルの充実
 - ② WEBを利用した会員サービスの向上
 - 3) 年大会参加登録システムの充実
- (9) 国際交流、国際展開の推進
 - 1) 生物工学アジア若手賞および生物工学アジア若手研究奨励賞の授与

- 2) 韓国KSBBとの交流促進
 - 3) アジア各国をはじめとする諸外国研究者、研究団体との交流
 - 4) 海外会員増加方策の検討
 - 5) SBJシンポジウムの一部セッションを国際シンポジウムとして企画
 - 6) 国際展開委員会と国際展開戦略特別部会の連携による国際交流促進
- (10) JABEE(日本技術者教育認定機構)活動との密接な連携
- 1) 学会内対応組織の拡充・強化
 - 2) 「生物工学および生物工学関連分野」の審査の実施
 - 3) JABEE事業に対する啓発活動
 - 4) アジアにおける技術者教育認定活動現状の把握
- (11) 生物工学会誌への投稿依頼を通じた、シニア会員の学会運営への意見反映
- (12) 若手および女性会員の学会運営への参画の促進
- 1) 生物工学若手研究者の集い(若手会)への積極的支援
 - 2) 若手および女性会員の学会活動への積極的登用 (理事補佐制度を含む)
- (13) 健全な学会活動を実現する財政基盤の強化、理事会運営、事務局運営の効率化・合理化に関する検討
- 1) 公益社団法人としての学会の持続的運営
 - 2) 財務基盤の強化と事業計画に基づく計画的かつ健全な学会運営
 - 3) 委員会における理事の役割分担と積極的な活動
 - 4) 事務局の安定かつ効率的な運営と合理化の検討

6. 関連学協会との連携および協力

- (1) 国内関連学協会との交流・連携
- (2) 横幹連合(横断型基幹科学技術研究団体連合)の活動に対する協力
- (3) 日本微生物学連盟の活動に対する協力
- (4) Asian Federation of Biotechnology(AFOB)の活動に対する協力